

■「司令塔、夏に鍛える－1部6校のQBたち」②

満を持して登場

篠原 浩大（北海学園大、4年）

午前9時の気温が26.1度と夏本番の7月23日。札幌市清田区の北海学園清田グラウンドのラグビー場で、北海学園大ゴールデンベアーズと釧路公立大ゴールデンクレインズの合同練習が始まった。北海学園大が、釧路公立大のバックス、レシーバー陣に声をかけて実現した合同トレ。QBとWRのパスユニットでは、今季から先発QBを務める篠原浩大（4年）が小気味のいいショートパスを次々と投じて、釧路公立大の若手QBに「お手本」を披露した。「秋に向けて、テンポのいいショートパスに磨きをかけたい」と新エースの自覚をにじませた練習が続いた。

4年生でようやくつかんだ先発ポジションだ。2020年に2年生QBとして道学生選手権（秋季リーグ）を制し、パインボウルも初優勝に導いた小笠原丈瑠と、21年シーズンに3年生QBで道リーグを連覇した河合祐輔とは、高校の同学年。札幌北陵高から一浪して入学したため、大学では1年後輩になり、3年間で2人の控えで過ごした。中学は野球部、高校はバドミントン部だったが、「漫画の『アイシールド21』であこがれた」と入部したアメフト部で、182センチ、83キロの恵まれた体と地肩の強さを武器に1年生からQB術を磨いてきた。それだけに、大学ラストイヤーで迎える晴れ舞台に、思いはひとしおだ。

しかし、初先発した7月16日の北海道大とのオープン戦は、ほろ苦いデビュー戦となった。第2Q、得意のショートパスと堅実なランで前進し、先制点かと思われた77ヤードランが反則で幻のTDになった。7-17で迎えた第4Qには、第1ダウン更新に必要な1ヤードが獲得できず、反撃も及ばなかった。「プレー一つ一つの精度が足りなかった。課題が見つかった」。試合後1週間が過ぎても反省が口をつく。今年の道学生選手権の開幕は8月27日。残り時間は少ないが、「基礎をしっかりとすれば勝ちにつながる。WRやOLが不足して苦しい今シーズンだが、QBとしてチームの闘争心を盛り上げたい。目標は打倒北大、北海道制覇」と巻き返しを誓った。

